



昭和29年4月に白石町と周辺6村が合併して白石市となりました。

市内の交通網は、内陸の都市らしく隣町へ続く道路が、市の中心部から放射状に広がっています。

白石市が宮城県と福島県の両県庁所在地の中間にあることから、東北新幹線の白石蔵王駅、東北自動車道の白石インターチェンジが設けられ、首都圏に直結しています。

また、仙台空港へは、車で45分という交通の要所です。

- 面積は286・47平方キロメートル
- 白石市の木・花・鳥
- 市の木・・・ブナ
- 市の花・・・ヤマブキ
- 市の鳥・・・ウグイス

白石市民憲章

雄大な蔵王を仰ぐ
わたくしたち白石市民は
自然を愛し
住みよい白石を つくります。
文化を高め 美しい心を
そだてます。
健康であたたかい
家庭をきずきまします。
仕事にはげみ 豊かな郷土を
つくりまします。
きまりを守り 明るい社会を
きずきまします。

白石市のシンボル 白石城

白石城は白石市の中心部にある益岡公園にあった平山城で、中世末期ころ、地元土豪白石氏の居城でしたが、慶長7年(1602)以降は仙台城の支城として伊達家の重臣片倉氏が代々居城し、元和元年(1615)の一國一城令後も例外的に『城』としての存続が認められました。

明治維新時には、白石城で奥羽越列藩同盟が結ばれるなど歴史が大きく転換する時にたびたび登場し、重要な役割を果たしてきましたが、明治2年には白石藩知事となった南部



白石城三階櫓と大手二ノ門

家(岩手県盛岡市)が城主となり、その後按察府という明治政府の広域行政府が置かれました。

片倉家は、開拓費用に充てるため白石城の売却を申請し、城は陸軍省、大蔵省へと管轄が移り、ついに大蔵省より明治7年に民間に払い下げ処分となりました。以後随時解体され、わずかに茶室、古井戸、大手門礎石、石垣の一部を残すのみでした。

白石市民の長年の夢、白石城の復元は、市民の間から寄付が寄せられるなど復元の運動が起こり、平成4年に石垣に着手し、平成7年に三階櫓(天守閣)と大手門を復元しました。

なお、本市の郷土資料館は、白石市の白石城をモデルとして昭和56年に建てられました。

渓谷や温泉のある 豊かな自然

国道113号を西方へ小原方面に向かい、白石川上流に出ると、水と緑と岩が奏でる見事な景観美の広がる碧玉溪です。

明治の文豪・徳富蘇峰がこの地を訪れた際に、その渓谷美に感動し、命名したといわれています。深い、緑色を宿した、玉のように美しい渓谷です。

新緑の時期には、生まれたての緑が目にしみ、そう快さもひときわ。夏になれば、川風が心地よく、気持ち

鎌先温泉



碧玉溪



ちまで涼しくなれます。秋の紅葉は、なかなかの風情。雪景色になれば、まさに一幅の墨絵の趣と、一年を通じて人びとを楽しませてくれます。

白石川上流のいで湯、小原温泉。緑豊かな渓谷に面した風光明媚な湯の里は、800年もの歴史を重ね、眼病に効く温泉として親しまれてきました。

南蔵王不忘山の頂からくだった谷あいには湧く、静かな温泉郷。鎌先温泉の名称は、600年以上も前に、里人が鎌の先でさぐりあてた温泉ということに由来しています。

神経痛や手術後の保養に効果があるといわれ、奥羽の薬湯として親しまれています。